学校番号	２１８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	新編数学Ⅱ　（数研出版）						
副教材等	３TRIAL　数学Ⅱ＋B（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では，課題に対して，自ら考え，周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で，自分の考えを発表したり，議論したりする活動を行います。
・自分で問題を解く際も上の一連の流れを意識しましょう。わからない問題も解決の方法を構想することが大事です。またその思考の過程を途中式として表現できるようにしましょう。答えあわせまで必ず行い，自分がどこでつまずいたのかを把握してください。
・家庭学習における課題は，定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることができる。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を身につけることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしている。 また，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 式と証明	第１節　式と計算 1．3 次式の展開と因数分解 2．二項定理 3．多項式の割り算 4．分数式とその計算 5．恒等式	a：3 次式の展開・因数分解の公式を利用することができる。 二項定理を利用して，展開式やその項の係数を求めることができる。 多項式の割り算の計算方法を理解している。 分数式の約分，四則計算ができる。 恒等式となるように，係数を決定することができる。 b：数学Ⅰで既習の 2 次式の展開公式を利用して，3 次式の展開公式を導くことができる。 二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。 多項式の割り算の結果を等式で	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

			表して考えることができる。 分数式を分数と同じように約分，通分して扱うことができる。 恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 c：因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。 通分をすることで，約分できる形に適切に式変形をしようとする態度がある。 恒等式の性質を理解し，具体的な問題に取り組もうとする。			

		第2節　等式・不等式 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	a: 恒等式 $A=B$ の証明を，適切な方法で行うことができる。 $A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して，等式を証明することができる。 比例式を $=k$ とおいて処理することができる。 実数の大小関係の基本性質に基づいて，自明な不等式を証明することができる。 平方の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。 絶対値の性質を利用して，絶対値を含む不等式を証明することができる。 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。 b: 与えられた条件式の利用方法を考え，等式を証明することができる。 比例式から分数式の値を求めることができる。 不等式 $A>B$ を証明するとき，$A-B>0$ を示してもよいことを利用して，不等式を証明することができる。 不等式の証明に実数の性質を利用できるように，式変形を考えることができる。 不等式の証明で，等号の成り立つ場合について考察できる。 同値な不等式を証明することで，もとの不等式を証明することができる。 c: 比例式を含む等式の証明を通じて，加比の理に興味をもち，考察しようとする。 不等式の証明を通じて，三角不等式に興味・関心をもち，それを利用しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

	第2章　複素数と方程式	第 1 節　複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2 次方程式の解 3. 解と係数の関係	a: 複素数，複素数の相等の定義を理解している。 複素数の四則計算ができる。 共役な複素数を求めることができる。 負の数の平方根を理解している。 負の数の平方根を含む式の計算を，i を用いて処理することができる。 2 次方程式の解の公式を利用して，2 次方程式を解くことができる。 判別式を利用して，2 次方程式の解の種類を判別することができる。 解と係数の関係を使って，対称式の値や 2 次方程式の係数を求めることができる。 対称式を基本対称式で表して，式の値を求めることができる。 2 次方程式の解を利用して，2 次式を因数分解できる。 2 数を解とする 2 次方程式を作ることができる。 b: 複素数の表記を理解し，複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。 複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 与えられた 2 数を解にもつ 2 次方程式が 1 つには定まらないことを理解している。 異なる 2 つの実数 α，β が正の数，負の数，異符号であることを，同値な式で表現できる。 2 次方程式の解の符号に関する問題を，解と係数の関係を利用して解くことができる。 c: 2 次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し，考察しようとする。 2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち，問題に	定期考査	定 期 考 査	提出物 レポート 小テスト

			取り組もうとする。			
		第2節　高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	a: 剰余の定理を利用して，多項式を 1 次式や 2 次式で割ったときの余りを求めることができる。 $P(k)=0$ である k の値の見つけ方を理解し，高次式を因数分解できる。 因数分解や因数定理を利用して，高次方程式を解くことができる。 高次方程式の 2 重解，3 重解の意味を理解している。 高次方程式の虚数解から，方程式の係数を決定することができる。 高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもてば，$a-bi$ を解にもつことを利用できる。 b: 多項式を 1 次式で割ったときの余りについて，剰余の定理で考察することができる。 多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。 高次方程式を 1 次方程式や 2 次方程式に帰着させることができる。 高次方程式が解 α をもつことを，式を用いて表現できる。 c: 多項式を 1 次式で割る計算に，組立除法を積極的に利用する。 1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

2学期	第3章 図形と方程式	第1節 点と直線 1. 直線上の点 2．平面上の点 3．直線の方程式 4．2直線の関係	a: 数直線上において，2 点間の距離，線分の内分点，外分点の座標が求められる。 線分の外分点の公式を適用する際に，分母を正にして計算しようとする。 座標平面上において，2 点間の距離が求められる。 座標平面上において，線分の内分点，外分点の座標が求められる。 三角形の重心の座標の公式を理解している。 x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 2 直線の平行・垂直条件を理解していて，それを利用できる。 図形 $F(x,y)=0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t)=0$ として処理できる。 点と直線の距離の公式を理解していて，それを利用することができる。 $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して，直線の方程式を求めることができる。 b: 線分の内分点，外分点の公式を統一して捉えようとする。 図形の性質を証明する際に，計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 直線が x，y の 1 次方程式で表されることを理解している。 図形的条件（線対称など）を式で表現できる。 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 c: x 切片と y 切片が与えられた直線の方程式について，一般に成り立つ性質を考察しようとする。 ある点を通り与えられた直線に平行な直線，垂直な直線の方程式を公式化し，利用しようとす	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

			る。 2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち，具体的な問題に利用しようとする。			

		第2節　円 5. 円の方程式 6. 円と直線 ７．２つの円	a:与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 x, y の２次方程式を変形して，その方程式が表す図形を調べることができる。 図形 $F(x,y)=0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t)=0$ として処理できる。 3点を通る円の方程式を求めることができる。 円と直線の共有点の座標を求めることができる。 円と直線の位置関係を，適切な方法で判定できる。 円の接線の公式を理解していて，それを利用できる。 ２つの円の位置関係を，中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ２つの円の位置関係と，中心間の距離と半径から，円の方程式を求めることができる。 $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して，円の方程式を求めることができる。 b: 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 図形 $F(x,y)=0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t)=0$ として処理できる。 3点を通る円の方程式を求めることができる。 円と直線の共有点の個数を，２次方程式の実数解の個数で考察することができる。 円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで，円と直線の位置関係を考察することができる。 c: 円と直線の位置関係を，２次方程式の判別式や，円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

		第3節　軌跡と領域 ８．軌跡と方程式 ９．不等式の表す領域	a：点が満たす条件から得られた方程式を，図形として考察することができる。 軌跡の定義を理解し，与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 不等式の表す領域を図示することができる。 連立不等式の表す領域を図示することができる。 領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 b：平面上の点の軌跡を，座標平面を利用して考察することができる。 軌跡を求めるには，逆についても調べる必要があることを理解している。 c：少し複雑な不等式の表す領域についても，興味をもち，取り組もうとする。	定期考査	定 期 考 査	提出物 レポート 小テスト

2学期	第4章 三角関数	第1節 三角関数 1. 角の拡張 ２．三角関数 ３．三角関数のグラフ ４．三角関数の性質 ５．三角関数を含む方程式，不等式	a：一般角を表す動径を図示したり，動径の表す角を$\alpha+360^\circ\times n$と表したりすることができる。 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また，弧度法の定義を理解し，度数法と弧度法の換算をすることができる。 扇形の弧の長さと面積の公式を理解している。 弧度法で表された角の三角関数の値を，三角関数の定義によって求めることができる。 単位円周上の点の座標を，三角関数を用いて表すことができる。 三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求めたり，式変形をしたりすることができる。 いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 $\theta+2n\pi$や$-\theta$などの公式を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 三角関数を含む 2 次方程式の解き方を理解している。 b：一般角を動径とともに考察することができる。 弧の長さで角を図る方法として，弧度法を考察することができる。 c：三角比の定義を一般化して，三角関数の定義を考察しようとする。	定期考査	定 期 考 査	提出物 レポート 小テスト

		第2節　加法定理 ６．加法定理 ７．加法定理の応用	a：加法定理を利用して，種々の三角関数の値を求めることができる。 正接の加法定理を利用して，2直線のなす角を考えることができる。 2倍角，半角の公式などを利用して，三角関数の値を求めたり，等式を証明したりすることができる。 2倍角の公式を利用して，三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 三角関数の合成について理解している。 b：2倍角の公式を利用して，三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。 xの関数$y = a\sin x + b\cos x$の式を適切に変形することで，関数の最大値・最小値を求めることができる。 合成後の変数のとる値の範囲に注意して，$a\sin x + b\cos x = k$の形の方程式を解くことができる。 c：同じ周期をもつ2つの関数$y = \sin x$と$y = \cos x$を合成すると そのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

3学期	**第5章 指数関数と対数関数**	第1節 指数関数 1．指数の拡張 2．指数関数	a：指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 底と1の大小に注意して，指数関数を含む不等式を解くことができる。 x 軸方向，y 軸方向に平行移動した指数関数のグラフをかくことができる。 $a^x > 0$ に注意して，おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。 b：指数法則が成り立つように，指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 指数関数の増減によって，大小関係や不等式・方程式を考察することができる。 c： 累乗根の性質に興味を示し，具体的に証明しようとする。 2の3乗根を小数で表すことに興味を示し，実際に取り組もうとする。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

		第2節　対数関数 ３．対数とその性質 ４．対数関数 ５．常用対数	a：指数と対数とを相互に書き換えることができる。 対数の定義を理解し，対数の値を求めることができる。 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 底の変換公式を等式として利用できる。 対数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 底と 1 の大小に注意して，対数関数を含む不等式を解くことができる。 対数の性質を用いる際に，真数が正であることに着目できる。 正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して，対数の値を求めることができる。 常用対数の定義を理解し，それに基づいて種々の値を求めることができる。 常用対数を利用して，桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 b：指数法則が成り立つように，指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 累乗根をグラフによって考察することができる。 c：累乗根の性質に興味を示し，具体的に証明しようとする。 負の数のn 乗根に興味を示し，具体的に理解しようとする。	定期考査	定 期 考 査	提出物 レポート 小テスト

	第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1．微分係数 2．導関数とその計算 3．接線の方程式	a: 極限値を計算して微分係数を求めるとき，分母の h は 0 でないことを理解している。 平均変化率，微分係数の定義を理解し，それらを求めることができる。 微分係数の図形的意味を理解している。 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 導関数の性質を利用して，種々の導関数の計算ができる。 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 変数が x，y 以外の関数について，導関数が求められる。 接点の x 座標が与えられたとき，接線の方程式を求めることができる。 接線の方程式の公式を利用して，接線の方程式を求めることができる。 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 b: 導関数を表す種々の記号を理解していて，それらを適切に使うことができる。 定点 C から曲線に接線を引くとき，接点 A における接線が点 C を通ると読み替えることができる。 c: 関数 x^n の導関数について，二項定理を用いた証明に興味をもち，考察しようとする。 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。	定期考査	定 期 考 査	提出物 レポート 小テスト

		第2節　関数の値の変化 ４．関数の増減と極大・極小 ５．関数の増減・グラフの応用	a：導関数を利用して，関数の増減を調べることができる。 関数の増減や極値を調べるのに，増減表を書いて考察している。 導関数を利用して，関数の極値を求めたり，グラフをかいたりすることができる。 関数の極値が与えられたとき，関数を決定することができる。 導関数を利用して，関数の最大値・最小値を求めることができる。 最大・最小の応用問題では，変数のとり方，定義域に注意して解くことができる。 導関数を利用して，方程式の実数解の個数問題，不等式の証明問題を解くことができる。 不等式 $f(x) \geqq 0$ を，関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。 b：方程式の実数解の個数を，関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 不等式を，関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて，考察できる。 c：身近にある最大値・最小値の問題を，微分法を利用して解決しようとする。 方程式や不等式を関数的視点で捉え，微分法を利用して解決しようとする。	定期考査	定 期 考 査	提出物 レポート 小テスト

		第3節　積分法 ６．不定積分 ７．定積分 ８．定積分と面積	a:不定積分の計算では，積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 不定積分の定義や性質を理解し，それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 与えられた条件を満たす関数を，不定積分を利用して求めることができる。 定積分の定義や性質を理解し，それを利用する定積分の計算方法を理解している。 上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分で表して求めることができる。 b: 定積分の性質の等式を，左辺から右辺，右辺から左辺への変形として利用できる。 上端が x である定積分を，x の関数とみることができる。 c: 定積分の性質を利用して，計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。	定期考査	定期考査	提出物 レポート 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度